

# 法学1

科目ナンバー OI111  
総合基礎 選択 2単位

夜久 仁

## 1. 授業の概要(ねらい)

- 1 我が国は、成文法主義を採用しているため、我が国における「法」は、国会が制定する「法律」とほぼ同義となります。このことを念頭に置きながら、法の内容、法の構造、法の存在形式、法の効力、法の分類など法に関する基礎的な事項を概説します。
- 2 次に、我が国の最高法規である日本国憲法に関して、基本原理、人権の保障、統治機構などを概説します。
- 3 この授業は主に講義形式ですが、各回で取り上げる事項に関して、各自が重要と思う点を中心にして適宜各自にプレゼンテーションを行ってもらうことがあります。
- 4 この授業では、学修目標3に関する知識、技法、態度を修得する。

## 2. 授業の到達目標

学生は、我が国における憲法、法律その他の法令に関して、基礎的な知識を習得することができる。

## 3. 成績評価の方法および基準

期末試験によります。なお、授業の感想をまとめたレポートを作成してもらうことがあります。  
期末試験終了後、希望者には研究室において解説します。また、後期の法学2の初回講義日に解説を行います。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

岩志和一郎(編著)『新版 法学の基礎』 成文堂 ISBN978-4-7923-0483-6

参考文献

LMSに、毎回のレジュメと資料を掲載します。

## 5. 準備学修の内容

毎回の授業の教材は、前もってLMS掲載されます。LMSの教材を使ってしっかりと予習をして授業に臨んでください。また、毎回の授業終了後には、その授業において最も興味を持った点を中心に、自分でノートにまとめるなどして復習をしてください。以上の予備学習に1.5時間程度、復習にも1.5時間程度の時間を取ってください。

## 6. その他履修上の注意事項

法学の究極の目的は、経済学と同じく、人間の幸福の実現に資することにあります。ただ、この問題は、基本的な哲学に関わりますので、論者によって、特に専門分野が公法か私法かによって、観点が若干異なります。本講義においても、憲法・民法・刑法のそれぞれが規律する対象の違いに注意してください。なお、民法及び刑法の概要は、後期の法学2・法律入門において説明します。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス・・・法とはどのようなものなのか
- 【第2回】 法の構造・・・行為規範・裁判規範・組織規範
- 【第3回】 法の内容・・・慣習規範・道徳規範・法規範の相違
- 【第4回】 法の目的と使命・・・社会秩序の維持・自由の確保・正義の実現
- 【第5回】 法の存在形式(1)・・・成文法と不文法
- 【第6回】 法の存在形式(2)・・・憲法・法律・命令・条例・条約
- 【第7回】 法の効力・・・人に関する効力・場所に関する効力・時に関する効力
- 【第8回】 法の分類(1)・・・公法・私法・社会法
- 【第9回】 法の分類(2)・・・実体法・手続法、強行法・任意法、一般法・特別法
- 【第10回】 法の運用・・・法律の解釈に関する諸方法
- 【第11回】 日本国憲法(1)・・・三つの基本原理
- 【第12回】 日本国憲法(2)・・・基本的人権①(自由権)
- 【第13回】 日本国憲法(3)・・・基本的人権②(社会権)
- 【第14回】 日本国憲法(4)・・・基本的人権③(幸福追求権・平等権)
- 【第15回】 前期講義のまとめ